

つながろう私たち つながろう東北と

どなたさまもご参加ください!

いま必要な 患の長い 愛の 絆

第2回

日本国際飢餓対策機構 (JIFH)

「東北被災地からの報告会」



日時 2014年10月26日(日)午後2時～4時
場所 明野キリスト教会(八幡市橋本)

今、東北被災地は? 明野キリスト教会では、昨年に引き続き今年も、震災当初から現地
で活動を行ってきた「日本国際飢餓対策機構」(JIFH)の吉田知基さん(写真)を招き、報
告会を実施します。昨年は、この報告会に触発されて二つのチームが生まれました。一つは
「ふくしま HOPE プロジェクト」の集会に手作りのケーキを送るチーム、もう一つは現地
を訪問してお話を聞くなどするチームです。これらの報告もさせていただきます。



震災後3年半を経て、いま、**私たちにできることは何か。**何かしたいのだけれど、何をし
たらよいかかわからない。どのように愛を届けたいかわからない。そのような皆さまのお気持ちを被
災地の方々にとりつぐお手伝いをさせていただきます。被災地の現状、被災地の方々の思いに耳を傾けてみ
ませんか。どなたさまもどうぞご参加ください。

たとえば・・・

被災地の方々への**寄付金**に
よる支援。

日本国際飢餓対策機構を通
して私たちの心を届けます。
どのように使われたか、きち
んと報告を受け取ることが
できます。

たとえば・・・

ケーキやお菓子などを作っ
て子どもたちやお年寄りに届
けませんか。

互いに教え合ったり、励ま
し合ったりしながら作る。お
金では買えない暖かさを届け
ることができたらいいです
ね。

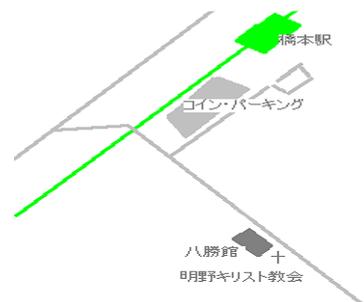
たとえば・・・

人々は**ふれあい**を求めてい
ます。一緒に現地を訪ねる
ことができたらいいいですね。

人々の話を聞く、子どもた
ちと遊ぶ・・・私たちは孤
独ではないのだということ
を実感していただければと思
います。

お問い合わせは下記まで。ホームページもごらんください。

日本イエス・キリスト教団 明野キリスト教会
〒614-8346 京都府八幡市橋本塩釜 29-13
Tel & Fax : 075-983-5503
メール : akeno@church.ne.jp
ホームページ : <http://church.ne.jp/akeno/>



【明野キリスト教会へのアクセス】

- お車で・・・橋本駅コインパーキングをご利用ください。パーキングより徒歩約10分です。
- 京阪バス・・・「塩釜」または「橋本小学校」バス停下車、徒歩約5分です。
- コミバス・・・「明野」バス停下車、徒歩約5分です。
- 京阪橋本駅より徒歩約15分です。

《どのようなお立場・信仰をお持ちの方でも参加できます。信仰を押しつけるようなことは決してありません。》

日本国際飢餓対策機構(JIFH)からのお知らせ

JIFH は、飢餓・貧困と闘いながら懸命に生きようとする人々に協力し、「ハンガーゼロ」運動を推進して、世界にある物心両面の飢餓撲滅に取り組んでいます。ハンガーゼロ(Hunger Zero)とは飢餓のない世界の事です。

いま飢餓で苦しんでいる人の数は全世界で約10億人。世界の7人に1人、アフリカでは3人に1人が飢餓状態です。慢性的に食料がなく、1日1回食べ物が入るかどうかという生活を送るバングラデシュ、カンボジア、中南米など多くの国々に、JIFHは海外駐在員を派遣して支援しています。

東日本大震災から3年半、復興に力強く歩み出された方々もおられますが、半歩前進にさえ大きな負担を覚えておられる方々も多くおられます。一人ひとりに寄り添うという思いを大切にし、とくに支援が届いていない方々に愛の手を伸ばし続けます。どうぞこれからも継続的な支援や様々なご協力をお願いいたします。

《八幡市の皆様へ》

JIFH 東北事務所 伊東綾さんより



仙台で生まれ育った私にとって、京都府八幡市はなじみの薄い地名でしたが、今ではとても親しみのある場所となりました。きっかけは、昨年、明野キリスト教会が、地域の方々に呼びかけて開催された、第1回「東北被災地からの報告会」。集まれた近隣の方々と明野キリスト教会のみなさんが、東北に寄り添うアイデアを出し合う中で、具合的に二つのプランが始まり、現地仙台での窓口として、私がお手伝いさせていただくことになったのです。

最初は、2013年12月の「ふくしま HOPE プロジェクト」へのパウンドケーキの差し入れ。原発被災地の子どもたちに、屋外で思いっきり遊んでもらうためのキャンプに、たくさんのパウンドケーキを送っていただきました。2014年5月はじめにも、レモンケーキをお送りくださり、子どもたちは大喜びでした。

2014年1月には、思いがけず、八幡市をお訪ねすることができました。私は、阪神・淡路大震災の追悼イベントに参加するために神戸を訪問したのですが、お招きにより、明野キリスト教会を訪問させていただいたのです。これは、近隣の方々と教会のメンバーで主に傾聴のために結成された「ボランティアチーム『絆』」との打合せのためでした。初めてお訪ねした古い歴史を持つ八幡市の静かなたたずまいに懐かしさのようなものを感じました。初めてお会いした八幡の方々とも、すぐに心が通じたように感じ、よい準備のときとなりました。

2014年5月中旬、6名の方が宮城に来てくださいました。手作りのレモンケーキをお土産にいただきました。「絆」の皆さんは、最初は自分たちが行って一体何ができるのだろうか、とても不安に感じられていたようです。そこで、「関西から来るのですから、お好み焼きをつまみながら仮設の方々とお茶飲みをしてみませんか?」とお勧めしたところ、喜んで賛同してくださり準備をしてくださいました。

訪問した石巻市の追波川の仮設住宅には、たくさんの方々が集まってくださり、「お茶飲み」をする時間が取れないほど焼き続けてくださいました。仮設の方々は、「お好み焼きなんて、お祭りの時くらいしか食べないから、とっても美味しいわ」とご自分の分だけでなく、お部屋に残っておられるご家族の分もと、お持ち帰りリクエストをたくさんいただきました。また同行して下さった石巻市八幡町(八幡町と



八幡市の偶然の一致!)の趙牧師のリードで、皆さんで手を繋ぎ、歌を歌ったり、ゲームをしたり和やかな時間を過ごしました。仮設の後は、趙牧師の活動拠点「お茶っこハウス」に移動してここでもお好み焼きを振る舞ってくださいました。

お好み焼きを食べた後に、来てくださった方々が震災当時の話をお話ししてくださいました。テレビや報道からは聞こえてこない物語を、被災者本人の口から聞く衝撃は、3年経過しても、痛みを抱えながら生きておられることを感じる時間であったようです。京都に帰られてから頂いたお手紙には、「被災地を訪問させていただいたことを感謝します。テレビや新聞などで頭で想像していましたが、なにもかも打ち破られて、頭が真っ白になり、体が震えました」と綴られていました。

そこでしか見えないものがあります。そこでしか聞けない音があります。そこでしか出会えない人がいます。ひとりの人の力が、誰かが前に進む力になっていくことがあります。ひとりの力には限界があるかもしれませんが、ひとつの力が100個集まれば、100倍の力になるのです。そんな風にして、東北が一步、一步元気づけられているように、世界の各地にも、たくさんの力が集まって欲しいと願っています。

「わたしから始める、世界が、東北が変わる」 どうかご支援を よろしくお願いします。